

# アジア物性材料

## 高純度セレン3割増販

### 17年乳がんX線検査向け

レアメタル・回収精製のアジア物性材料（本社＝横浜市緑区、水野光男社長）は、乳がん検診用のエックス線マンモグラフィ向けの高純度セレンの販売が伸びている。2017年は太陽電池向けなどが低調となる一方、マンモグラフィ向けは3割増の約20ト超となった。主にアジアを中心とした海外向けの需要が伸長しており、18年は医療向けでさらに1～2割の増販を目指す。

### 本年も医療分野で拡販

同社はセレンのインゴット（純度99・5～99・99％）を精製し、高純度セレン（純度99・99999％、6N）を製造している。マンモグラフィの画像素子に使われる高純度品を供給できるメーカーは国内では同社のみ。マンモグラフィ向けは、中国やインドなどアジア地域における医

療水準の向上にともない需要が増加しつつある。17年の高純度セレンの販売量は約40トで、マンモグラフィ向けは前年比3割増の20ト超だった。銅・インジウム・ガリウム・セレン（CIGS）系太陽

電池向けの販売は落ち込んだが、医療向けがカバーした。実需の伸長やレアメタル市況の反発を受け、17年1月期の業績は売り上げ、販売量ともに「過去10年で最も厳しかった」（水野社長）という前期から回復した。

本社といわき工場（福島県いわき市）の高純度セレンの生産能力には余裕があり、今後の需要増加に対応できる体制を整えている。将来の需要を見込んで、酸素などの不純物を低減した高純度製品の開発を進めてい

る。また、酸化ケイ素や窒化ガリウムのさらに先の次世代パワー半導体材料として期待される酸化ガリウムの研究開発にも取り組む。「ニッチな部分で差別化を図る」（水野社長）。